

長年の環境協力が高く評価され、 インドネシア政府から公式な感謝状

令和7年11月25日から29日の5日間にわたり、東靖弘前町長を団長とする町長使節団が、国際協力事業の連携先であるインドネシア共和国バリ州ギャニヤール県を訪問しました。

今回の訪問は、環境省所管の「脱炭素社会実現のための都市間連携事業」の一環として、現地との友好関係と相互理解を深め、環境管理分野における協力協定（シターシティ協力）の合意を目指すことを主な目的としています。

この訪問期間中の11月28日午前、**インドネシア政府環境省**は、これまで10年以上にわたり大崎町がインドネシア各地でごみ減量化に尽力してきた功績を讃え、バリ州から東前町長へ公式の感謝状が贈呈されました。

大崎町は2012年以降、JICA草の根技術協力事業などを通じてインドネシアへの支援を継続しており、住民・企業・行政が協働する低コストな廃棄物処理システムである「大崎システム」の技術移転と人材育成に努めてきました。焼却炉に頼らず、徹底した分別とリサイクルで高いリサイクル率を実現するこのモデルは、インドネシア政府自体も注目しています。



インドネシア環境省幹部職員より感謝状の贈呈

バリ州環境改善表彰で、大崎町が支援する村々が上位を独占！

大崎町の技術協力は現地で具体的な成果を上げています。特に誇らしい成果として、バリ州内約400の村が参加する**環境改善表彰制度**において、1位、2位、3位すべてを「大崎町の研修生が関わった村」が独占したことが報告されました。

上位に入賞したのは、**グリンガン村**、**ダルマサバ村**、**トゥリックップ村**の3村です。これらの村はいずれも、大崎町の継続的な技術指導を受け、長年にわたり研修生との交流と改善活動を続けてきた地域です。この成果は、単なる設備導入ではなく、「住民の理解と協働」を重視してきた大崎町のアプローチが、国際的にも通用する持続可能なモデルであることを示しています。実際に、大崎町で研修を受けた現地職員が中心となり、TPS3R（ごみ分別・資源化施設）の運営改善や、婦人会を中心とする住民組織と連携した分別活動を現地で主導しています。



バリ州表彰を受賞したダルマサバ村